

5 食物アレルギー(H27.5.1現在 公立)

(1) 食物アレルギーを持つ児童生徒数

(単位:校、人)

	小学校		中学校		特別支援学校		合計	
	学校数	児童数	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	児童生徒数
完全給食を実施する学校及び児童生徒総数	766	291,885	226	59,945	44	4,706	1,036	356,536
食物アレルギーを持つ児童生徒総数及び学校数	712	13,049	175	2,856	40	226	927	16,131
H27年度比率%	(93.0)	(4.5)	(77.4)	(4.8)	(90.9)	(4.8)	(89.5)	(4.5)
H26年度比率%	(92.6)	(4.4)	(91.8)	(4.9)	(85.7)	(4.4)	(92.2)	(4.5)

※神戸市の夜間中学校は除く

(2) 食物アレルギーの原因となる主な食品(複数回答有り)

項目	児童生徒数		(参考) H26比率	項目	児童生徒数		(参考) H26比率	項目	児童生徒数		(参考) H26比率
	(人)	(%)			(人)	(%)			(人)	(%)	
小麦	689	(4.3)	(4.3)	そば	1,657	(10.3)	(10.9)	卵	6,692	(41.5)	(43.3)
乳	3,242	(20.1)	(20.3)	落花生	1,776	(11.0)	(10.6)	えび	2,229	(13.8)	(13.9)
かに	1,837	(11.4)	(11.7)	あわび	124	(0.8)	(0.5)	いか	755	(4.7)	(4.6)
いくら	566	(3.5)	(3.5)	オレンジ	139	(0.9)	(0.8)	キウイフルーツ	1,175	(7.3)	(6.4)
牛肉	74	(0.5)	(0.5)	くるみ	600	(3.7)	(2.9)	さけ	225	(1.4)	(1.3)
さば	456	(2.8)	(3.0)	大豆	311	(1.9)	(1.9)	鶏肉	61	(0.4)	(0.4)
豚肉	29	(0.2)	(0.2)	まつたけ	8	(0.0)	(0.1)	もも	410	(2.5)	(2.4)
やまいも	519	(3.2)	(3.2)	りんご	546	(3.4)	(3.0)	ゼラチン	23	(0.1)	(0.1)
バナナ	424	(2.6)	(2.7)	カシューナッツ	588	(3.6)	(3.5)	ごま	355	(2.2)	(2.5)
その他	3,859	(23.9)	(22.1)								

()内は、「食物アレルギーを持つ児童生徒数(16,131人)」に対する比率(%)である。

(3) 食物アレルギーを持つ児童生徒への対応状況(小学校・中学校、複数回答有り)

① 小・中学校別

(単位:校)

項目		小学校数		中学校数		合計				
食物アレルギーを持つ児童生徒がいる完全給食実施校		712	(100.0)	H26比率	175	(100.0)	H26比率	887	(100)	H26比率
レベル1	保護者に対して使用食材の分かる献立表を事前に配付	695	(97.6)	(94.4)	153	(87.4)	(77.5)	848	(95.6)	(91.1)
	担任教諭の指導の下、原因食品を除去して食べさせる	446	(62.6)	(64.0)	80	(45.7)	(44.4)	526	(59.3)	(60.1)
レベル2	弁当を自宅から持参させる	512	(71.9)	(70.6)	87	(49.7)	(44.4)	599	(67.5)	(65.4)
レベル3	牛乳の使用を停止	529	(74.3)	(73.6)	96	(54.9)	(54.5)	625	(70.5)	(69.8)
	原因食品(牛乳を除く)を除去した給食を提供	547	(76.8)	(75.7)	90	(51.4)	(44.9)	637	(71.8)	(69.6)
レベル4	原因食品を他の食品に交換した給食を提供	184	(25.8)	(27.2)	52	(29.7)	(25.8)	236	(26.6)	(26.9)
	特別メニューによる給食を提供	3	(0.4)	(1.0)	0	0.0	(1.7)	3	(0.3)	(1.1)
その他	代替食材料を自宅から持参させる	58	(8.1)	(9.8)	7	(4.0)	(8.4)	65	(7.3)	(9.5)
	その他	7	(1.0)	(2.2)	7	(4.0)	(2.2)	14	(1.6)	(2.2)
	対応していない	19	(2.7)	(2.4)	15	(8.6)	(9.6)	34	(3.8)	(3.8)

()内は、「食物アレルギーを持つ児童生徒がいる完全給食実施校」に対する比率(%)である。

② 調理方式別

(単位:校)

項目		単独調理方式		共同調理方式		合計				
		学校数	H26比率	学校数	H26比率	学校数	H26比率			
食物アレルギーを持つ児童生徒がいる完全給食実施校		488	(100.0)	H26比率	399	(100.0)	H26比率	887	(100.0)	H26比率
レベル1	保護者に対して使用食材の分かる献立表を事前に配付	461	(94.5)	(93.5)	387	(97.0)	(88.1)	848	(95.6)	(91.1)
	担任教諭の指導の下、原因食品を除去して食べさせる	322	(66.0)	(64.6)	204	(51.1)	(54.6)	526	(59.3)	(60.1)
レベル2	弁当を自宅から持参させる	393	(80.5)	(82.1)	206	(51.6)	(44.9)	599	(67.5)	(65.4)
レベル3	牛乳の使用を停止	398	(81.6)	(82.1)	227	(56.9)	(54.8)	625	(70.5)	(69.8)
	原因食品(牛乳を除く)を除去した給食を提供	421	(86.3)	(84.3)	216	(54.1)	(51.6)	637	(71.8)	(69.6)
レベル4	原因食品を他の食品に交換した給食を提供	90	(18.4)	(19.9)	146	(36.6)	(35.5)	236	(26.6)	(26.9)
	特別メニューによる給食を提供	3	(0.6)	(1.2)	0	0.0	(1.0)	3	(0.3)	(1.1)
その他	代替食材料を自宅から持参させる	30	(6.1)	(5.9)	35	(8.8)	(13.9)	65	(7.3)	(9.5)
	その他	5	(1.0)	(3.5)	9	(2.3)	(0.7)	14	(1.6)	(2.2)
	対応していない	14	(2.9)	(2.2)	20	(5.0)	(5.7)	34	(3.8)	(3.8)

()内は、「食物アレルギーを持つ児童生徒がいる完全給食実施校」に対する比率(%)である。